

学生時代、将棋に凝った時期があり、一応「アマ初段」である。昭和の大山さん、平成の羽生さんはやはり天才だと思っている。

しかし、なんと言っても驚くのは「藤井聡太さん」である。マスコミでもさんざん報道されているが、29連勝の記録、17歳でのタイトル獲得である。人工知能（AI）に有名プロ棋士が負けてしまうことが不思議ではなくなり、「結局、人間はAIには勝てないのか…」とつまらなく思っていたが、今回の対局で指したある一手（奇跡の「3一銀」と言われる）に腰を抜かした。

今どきの将棋放送は、AIも同時に指し、一手指すごとにAIがどちらが有利か数値で形勢判断をする。藤井さんのその一手は瞬時にAIが「形勢がマイナス4%」と判断。つまりダメな手のはずだった。

しかしAIが「3億手」を考えたあたりから、「その手もある」に変わっていき、「4億手」を考えたあたりで「有力な候補」になり、「6億手」を考えた時点で「最善手（最高の一手法）」となった。AIが6億手を考えて、ようやく出した方法を彼はわずか23分で指して勝利したのである。もちろん藤井さんもコンピュータで将棋の研究をしているそうだが、テレビに映った彼の本棚にはビッシリと「将棋の本」が並んでいた。「コンピュータか？本か？」ではなく、どちらからも学ぶことが必要な時代だ。

どうでもいいことだが、彼の嫌いな食べ物はキノコだそう。私は好きである。少しホッとした。